

講義要綱

2026年度

夜間課程 2学年

学年担任 杉田 貴寛



専門学校

医学アカデミー
理学療法学科

Igaku Academy Physical Therapies

目次

夜間課程 単位表	4
夜間課程 2学年	
人間関係・コミュニケーション論Ⅱ	5
保健体育Ⅱ	6
臨床心理	7
病理	8
内科と理学療法	9
老年期障害と理学療法	10
整形外科と理学療法	11
神経内科と理学療法	12
一般臨床医学と理学療法	13
臨床運動学	14
理学療法研究法	15
理学療法評価Ⅲ	16
理学療法評価Ⅳ	17
運動療法Ⅱ	18
物理療法	19
日常生活活動	20
装具学	21
疾患別理学療法Ⅰ(骨関節)	22
疾患別理学療法Ⅱ(成人中枢)	23
疾患別理学療法Ⅲ(神経筋)	24
理学療法総理解Ⅱ	25
総合理学療法Ⅱ	26
地域リハビリテーション(地域包括ケア、介護予防)	27
臨床実習Ⅱ	28
臨床実習Ⅲ(地域リハビリテーション実習)	29

医療専門課程理学療法学科（夜間課程）

科目区分	授業科目	区分	第一学年		第二学年		第三学年		単位数	時間数		
			単位数	年間授業時間	単位数	年間授業時間	単位数	年間授業時間				
基礎分野	科学的思考の基礎	医学英語Ⅰ	講義	1	16				1	16		
		医学英語Ⅱ	講義					1	16	1	16	
		情報科学・プレゼンテーション	演習	1	30					1	30	
		医療統計	講義					1	16	1	16	
	人間と生活	人体とバイオメカニクス	講義					1	16	1	16	
		医療の歴史と倫理	講義	1	16					1	16	
		関連法規	講義					1	16	1	16	
		理学療法の領域と位置付け	講義	1	16					1	16	
		心理	講義	1	16					1	16	
		人間関係・コミュニケーション論Ⅰ	演習	1	30					1	30	
		人間関係・コミュニケーション論Ⅱ	演習			1	16			1	16	
	社会の理解	保健体育Ⅰ	演習	1	30					1	30	
		保健体育Ⅱ	演習			1	16			1	16	
		公衆衛生	講義	1	16					1	16	
基礎合計			8	170	2	32	4	64	14	266		
専門基礎分野	人体の構造と機能及び心身の発達	人体の構造と機能 総論	講義	1	30					1	30	
		人体の構造と機能 各論Ⅰ（神経系の構造）	講義	1	30					1	30	
		人体の構造と機能 各論Ⅱ（神経系の機能）	講義	1	30					1	30	
		人体の構造と機能 各論Ⅲ（運動器系の構造）	講義	1	30					1	30	
		人体の構造と機能 各論Ⅳ（運動器系の機能）	講義	1	30					1	30	
		人体の構造と機能 各論Ⅴ（内臓器系の構造）	講義	1	30					1	30	
		人体の構造と機能 各論Ⅵ（内臓器系の機能）	講義	1	30					1	30	
		人体の構造と機能 演習（表面解剖）	演習	3	48					3	48	
		運動学Ⅰ（四肢体幹の運動）	講義	3	48					3	48	
		運動学Ⅱ（姿勢と動作）	講義	1	30					1	30	
		運動学Ⅲ（運動生理・運動学習）	講義	1	30					1	30	
		運動学演習	演習	1	30					1	30	
		人間発達	講義	1	16					1	16	
		(小計)		17	412	0	0	0	0	17	412	
	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	疾病・病態論	講義	1	30					1	30	
		臨床心理	講義			1	16			1	16	
		病理	講義			1	16			1	16	
		内科と理学療法	講義			1	30			1	30	
		老年期障害と理学療法	講義			1	16			1	16	
		整形外科と理学療法	講義			3	48			3	48	
		神経内科と理学療法	講義			3	48			3	48	
		精神医学と理学療法	講義					2	30	2	30	
		小児科と理学療法	講義					1	16	1	16	
		一般臨床医学と理学療法	講義			1	30			1	30	
	(小計)		1	30	11	204	3	46	15	280		
	保健医療福祉とリハビリテーションの理念	地域保健福祉論	講義	1	16					1	16	
		リハビリテーション概論	講義	1	16					1	16	
		疾病予防と健康管理	講義					2	30	2	30	
	(小計)		2	32	0	0	2	30	4	62		
	専門基礎分野合計			20	474	11	204	5	76	36	754	
	専門分野	基礎理学療法	理学療法概論	講義	1	30					1	30
			障害と理学療法手法	講義	2	30					2	30
			臨床運動学	演習			1	30			1	30
理学療法研究法			講義			2	30			2	30	
(小計)				3	60	3	60	0	0	6	120	
理学療法管理学		理学療法管理学	講義					2	30	2	30	
		(小計)		0	0	0	0	2	30	2	30	
理学療法評価学		理学療法評価概論	講義	1	16					1	16	
		理学療法評価Ⅰ	実習	1	44					1	44	
		理学療法評価Ⅱ	実習	1	44					1	44	
		理学療法評価Ⅲ	演習			1	30			1	30	
		理学療法評価Ⅳ	演習			1	30			1	30	
		理学療法評価Ⅴ	実習					1	44	1	44	
(小計)			3	104	2	60	1	44	6	208		
理学療法治療学		運動療法Ⅰ	演習	1	30					1	30	
		運動療法Ⅱ	演習			2	30			2	30	
		運動療法Ⅲ	演習					1	30	1	30	
		物理療法	演習			1	30			1	30	
		日常生活活動	講義			1	30			1	30	
		日常生活活動演習	演習					3	48	3	48	
		装具学	講義			1	30			1	30	
		義肢学	講義					1	30	1	30	
		疾患別理学療法Ⅰ（骨関節）	演習			3	48			3	48	
		疾患別理学療法Ⅱ（成人中枢）	演習			3	48			3	48	
		疾患別理学療法Ⅲ（神経筋）	演習			3	48			3	48	
		疾患別理学療法Ⅳ（内部障害）	演習					3	48	3	48	
		疾患別理学療法Ⅴ（小児発達障害）	講義					1	16	1	16	
		理学療法演習	実習					1	44	1	44	
		理学療法総合理解Ⅰ	演習	1	30					1	30	
		理学療法総合理解Ⅱ	演習			1	16			1	16	
		理学療法総合理解Ⅲ	演習					1	16	1	16	
		理学療法特論	演習					2	60	2	60	
		総合理学療法Ⅰ	実習	1	30					1	30	
	総合理学療法Ⅱ	実習			1	30			1	30		
総合理学療法Ⅲ	実習					1	44	1	44			
総合理学療法Ⅳ	演習					1	30	1	30			
(小計)		3	90	16	310	15	366	34	766			
地域理学療法	基本動作支援技術	演習	1	30					1	30		
	地域リハビリテーション（地域包括ケア、介護予防）	講義			1	30			1	30		
	生活環境論	講義					1	16	1	16		
(小計)		1	30	1	30	1	16	3	76			
臨床実習	臨床実習Ⅰ	実習	1	45					1	45		
	臨床実習Ⅱ	実習			9	405			9	405		
	臨床実習Ⅲ（地域リハビリテーション実習）	実習			1	45			1	45		
	臨床実習Ⅳ	実習					9	405	9	405		
	(小計)		1	45	10	450	9	405	20	900		
専門分野合計			11	329	32	910	28	861	71	2100		
必修科目授業合計			39	973	45	1146	37	1001	121	3120		
選択科目授業合計				0		0		0		0		
卒業に必要な総授業時間数			39	973	45	1146	37	1001	121	3120		

2026年 医学アカデミー理学療法学科 夜間課程

2学年	科目	人間関係・コミュニケーション論Ⅱ	単位・時間数	1単位・16時間
	講師	杉田 貴寛	担当教員	杉田 貴寛

I 教育目標

医療職としての接遇・対応で配慮すべき点について学習する。

II 到達目標

医療職としての接遇・対応を実践できる。

III 学習内容(シラバス)

1	現代社会の人間関係
2	異文化間コミュニケーション
3	異世代間コミュニケーション タイプ別人間関係
4	多職種とのコミュニケーション 価値観
5	多様な人間関係 初対面の人との関わり
6	専門職として期待される人間関係 ホスピタリティ
7	コミュニケーション(話し方・聴き方) ストレス(ストレッサー、対処法)
8	まとめ

IV 成績評価

レポート課題により評価する。

V 教科書

配布プリント

2026年 医学アカデミー理学療法学科 夜間課程

2学年	科目	保健体育Ⅱ	単位・時間数	1単位・16時間
	講師	杉田 貴寛	担当教員	杉田 貴寛

I 教育目標

グループ活動を通して、主体的な行動、計画性について再学習する。

II 到達目標

グループ活動を実践し、主体的、計画的に行動できる。

III 学習内容(シラバス)

1	オリエンテーション
2	グループディスカッション①
3	グループディスカッション②
4	グループディスカッション③
5	フィールドワーク①
6	フィールドワーク②
7	フィールドワーク③
8	フィールドワーク④

IV 成績評価

レポート課題により評価する。

V 教科書

配布プリント

2026年 医学アカデミー理学療法学科 夜間課程

2学年	科目	臨床心理	単位・時間数	1単位・16時間
	講師	鈴木 健司	担当教員	杉田 貴寛

I 教育目標

心理学で学んだ内容を加味し、心理検査法および心理療法について学習する。

II 到達目標

上記内容について説明できる。

III 学習内容(シラバス)

1	臨床心理とは
2	投影法
3	質問紙法、作業検査法
4	知能検査
5	特殊知能検査
6	心理療法①
7	心理療法②
8	まとめ

IV 成績評価

学力試験により評価する。

V 教科書

リハベリック 心理学・臨床心理学第2版(医歯薬出版)

2026年 医学アカデミー—理学療法学科 夜間課程

2学年	科目	病理	単位・時間数	1単位・16時間
	講師	長谷川 真也	担当教員	杉田 貴寛

I 教育目標

主要な病態(炎症、感染、腫瘍等)について、その病因と病理学的変化を学習する。

II 到達目標

主要な病態について、病因、病理学的変化を説明できる。

III 学習内容(シラバス)

1	序論(病理学とは) 先天異常
2	代謝異常 炎症と免疫、膠原病
3	腫脹 皮膚・爪の構造と機能 老化と死
4	循環器系、血液造血器系の疾患
5	呼吸器系、消化器系の疾患
6	胃・泌尿器・生殖器の疾患
7	内分泌系疾患
8	脳神経・筋疾患

IV 成績評価

学力試験により評価する。

V 教科書

【標準理学療法学・作業療法学・専門基礎分野】病理学 第5版(医学書院)

2026年 医学アカデミー—理学療法学科 夜間課程

2学年	科目	内科と理学療法	単位・時間数	1単位・30時間
	講師	土屋 稔・田中 靖子	担当教員	田中 靖子

I 教育目標

内部障害を引き起こす主な疾患およびがん関連障害の病因、病態生理、症候、診断と治療について学習する。

II 到達目標

上記疾患について、疫学、予後、病因、症候、検査、診断、治療、リハビリテーション医療について説明できる。

III 学習内容(シラバス)

1	呼吸器疾患 総論
2	呼吸器疾患1
3	呼吸器疾患2
4	呼吸器疾患3
5	循環器疾患 総論
6	循環器疾患1
7	循環器疾患2
8	循環器疾患3
9	代謝疾患 総論
10	代謝疾患1
11	胆嚢、膵臓、肝臓疾患
12	消化器疾患、腎臓疾患
13	血液・造血疾患、内分泌系疾患
14	免疫疾患、感染症、がん
15	まとめ

IV 成績評価

学力試験により評価する。

V 教科書

病気がみえる<vol.1>消化器 第7版(メディックメディア)
病気がみえる<vol.2>循環器 第6版(メディックメディア)
病気がみえる<vol.3>糖尿病・代謝・内分泌 第5版(メディックメディア)
病気がみえる<Vol.4>呼吸器 第4版(メディックメディア)
最新理学療法学講座 内部疾患理学療法学 第2版(医歯薬出版)

2026年 医学アカデミー—理学療法学科 夜間課程

2学年	科目	老年期障害と理学療法	単位・時間数	1単位・16時間
	講師	長谷川 真也	担当教員	杉田 貴寛

I 教育目標

老年期障害(褥瘡を含む)の病因、病態生理、症候、診断と治療、高齢者医療における注意点について学習する。

II 到達目標

上記疾患について、疫学、予後、病因、症候、検査、診断、治療、リハビリテーション医療について説明できる。

III 学習内容(シラバス)

1	加齢と老化
2	加齢に伴う心身機能面の変化 1
3	加齢に伴う心身機能面の変化 2 高齢者に多い疾患の病理
4	高齢者に多い疾患1
5	高齢者に多い疾患2
6	高齢者に多い疾患3
7	高齢者の理学療法
8	まとめ

IV 成績評価

学力試験により評価する。

V 教科書

【標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野】老年学 第6版

2026年 医学アカデミー—理学療法学科 夜間課程

2学年	科目 整形外科と理学療法	単位・時間数 3単位・48時間
	講師 田中 靖子・新井 啓介	担当教員 田中 靖子

I 教育目標

骨関節障害を引き起こす主な疾患の病因、病態生理、症候、診断と治療について学習する。

II 到達目標

上記疾患について、疫学、予後、病因、症候、検査、診断、治療、リハビリテーション医療について説明できる。

III 学習内容(シラバス)

1	整形外科学とは 運動器の構造と機能、疾患の成り立ち	16	スポーツ外傷・障害1 スポーツ外傷
2	関節疾患1 総論	17	スポーツ外傷・障害2 スポーツ障害①
3	関節疾患2 変形性股関節症、変形性膝関節症、その他の関節症	18	スポーツ外傷・障害3 スポーツ障害②
4	関節疾患3 その他の関節症	19	その他の整形外科疾患1 脊椎疾患、上肢の疾患
5	外傷 総論	20	その他の整形外科疾患2 下肢の疾患、先天性障害
6	外傷1 骨折、脱臼 総論、上肢の骨折	21	その他の整形外科疾患3 骨代謝障害、骨端症・骨壊死
7	外傷2 骨盤・下肢の骨折	22	その他の整形外科疾患4 骨腫瘍、切断
8	外傷3 小児の骨折	23	その他の整形外科疾患5 熱傷
9	外傷4 体幹の骨折、脊椎・脊髄損傷	24	問題演習②
10	関節リウマチとその類縁疾患1 関節リウマチの病態、 症状		
11	関節リウマチとその類縁疾患2 関節リウマチの分類基 準、治療		
12	問題演習①		
13	末梢神経障害1 総論、外傷性末梢神経損傷		
14	末梢神経障害2 絞扼性障害①		
15	末梢神経障害3 絞扼性障害②		

IV 成績評価

学力試験により評価する。

V 教科書

病気がみえる<Vol.11>運動器・整形外科 第2版(メディックメディア)
配布プリント

2026年 医学アカデミー—理学療法学科 夜間課程

2学年	科目 神経内科と理学療法	単位・時間数 3単位・48時間
	講師 新井 啓介	担当教員 新井 啓介

I 教育目標

中枢神経、および末梢神経・筋の障害を引き起こす疾患および痛みを引き起こす疾患の病因、病態生理、症候、診断と治療について学習する。

II 到達目標

上記疾患について、疫学、予後、病因、症候、検査、診断、治療、リハビリテーション医療について説明できる。

III 学習内容(シラバス)

1	中枢神経系の解剖と機能	16	変性疾患、脱髄疾患
2	神経学的診断法,画像診断,神経症候学1(意識障害)	17	Parkinson病
3	神経症候学2(錐体路徴候)	18	脊髄損傷1
4	神経症候学3(錐体外路徴候)	19	脊髄損傷2
5	神経症候学4(運動失調)	20	筋疾患
6	神経症候学5(感覚障害)	21	小児神経疾患
7	神経症候学6(失語症)	22	末梢神経損傷
8	神経症候学7(失認、失行)	23	中毒、てんかん
9	神経症候学8(記憶、注意、遂行)	24	まとめ
10	神経症候学9(構音障害・嚥下)		
11	廃用症候群と誤用症候群、合併症		
12	脳血管障害1		
13	脳血管障害2		
14	認知症		
15	脳腫瘍、外傷性損傷		

IV 成績評価

学力試験により評価する。

V 教科書

【標準理学療法学・作業療法学・専門基礎分野】神経内科学 第6版
配布プリント

2026年 医学アカデミー—理学療法学科 夜間課程

2学年	科目	一般臨床医学と理学療法	単位・時間数	1単位・30時間
	講師	田中 靖子・他	担当教員	田中 靖子

I 教育目標

疾病の診断(生化学的検査、画像検査等)、臨床薬学、救急医学、栄養学の基礎について学習する。

II 到達目標

上記内容についてリハビリテーション・理学療法における活用方法や影響を説明できる。

III 学習内容(シラバス)

1	画像診断 総論 X線単純画像、CT画像、MRI画像の特徴
2	画像診断 各論1 神経疾患の画像読解1
3	画像診断 各論2 神経疾患の画像読解2
4	画像診断 各論3 整形外科疾患の画像読解
5	画像診断 各論4 内科疾患の画像読解
6	薬理学1 血液、骨粗鬆症、脂質異常症、糖尿病に作用する薬物
7	薬理学2 腎機能障害、血圧調整に作用する薬物
8	薬理学3 呼吸・循環器障害に作用する薬物
9	薬理学4 関節リウマチ、パーキンソン病に作用する薬物
10	薬理学5 精神疾患(気分障害、睡眠障害、統合失調症)に作用する薬物①
11	薬理学6 精神疾患(気分障害、睡眠障害、統合失調症)に作用する薬物②
12	生化学的検査
13	栄養学の基礎、栄養障害、栄養療法
14	医療人として必要な応急処置法、心肺蘇生法(BLS)
15	まとめ

IV 成績評価

学力試験により評価する。

V 教科書

15レクチャーシリーズリハビリテーションテキスト 画像評価学(中山書店)
配布プリント

2026年 医学アカデミー—理学療法学科 夜間課程

2学年	科目	臨床運動学	単位・時間数	1単位・30時間
	講師	森田 敬介	担当教員	森田 敬介

I 教育目標

基本姿勢および基本動作の観察・分析手法を学習する。
主要な疾患・病態に起因する異常姿勢・動作の観察および分析について学習する。

II 到達目標

主要な疾患・病態に起因する異常姿勢・動作の特徴、観察および分析のポイントが説明できる。

III 学習内容(シラバス)

1	臨床における動作分析
2	姿勢制御のバイオメカニズム
3	姿勢制御のバイオメカニズム
4	寝返り動作の概要・分析
5	寝返り動作の分析・評価
6	起き上がり動作の概要・分析
7	起き上がり動作の分析・評価
8	寝返り、起き上がり動作の誘導
9	起立・着座動作の概要・分析 姿勢分析
10	起立・着座動作の分析・評価 姿勢評価
11	起立・着座動作の誘導
12	歩行の概要・分析
13	歩行の分析
14	歩行の分析・評価
15	まとめ

IV 成績評価

学力試験により評価する。

V 教科書

動作分析臨床活用講座バイオメカニクスに基づく臨床推論の実践(メジカルビュー社)
基礎運動学 第7版(医歯薬出版)

2026年 医学アカデミー—理学療法学科 夜間課程

2学年	科目	理学療法研究法	単位・時間数	2単位・30時間
	講師	森田 敬介	担当教員	森田 敬介

I 教育目標

研究の意義、研究手法、研究計画、研究結果のまとめ方について学習する。

II 到達目標

研究内容に対する研究手法の選び方を説明できる。
テーマを決めそれに対する研究計画案を立案できる。

III 学習内容(シラバス)

1	研究とは、研究法を学ぶ必要性、研究倫理
2	研究デザイン
3	統計手法
4	論文の検索方法と読み方
5	論文抄読 演習1
6	研究計画①
7	研究計画②
8	研究成果のまとめ方①
9	研究成果のまとめ方②
10	研究成果のまとめ方③
11	研究考察①
12	研究考察②
13	研究考察③、発表練習
14	研究発表会1
15	研究発表会2

IV 成績評価

発表にて評価する。

V 教科書

配布プリント

2026年 医学アカデミー—理学療法学科 夜間課程

2学年	科目	理学療法評価Ⅲ	単位・時間数	1単位・30時間
	講師	森田 敬介・岩澤 祐希	担当教員	森田 敬介

I 教育目標

骨関節疾患に対する理学療法評価過程・臨床推論を学習する。
整形外科的検査を修得する。

II 到達目標

骨関節疾患に対する理学療法評価過程を説明できる。
骨関節疾患の模擬症例に対する理学療法評価を実践できる。
整形外科的検査について説明できる。

III 学習内容(シラバス)

1	骨関節疾患における情報収集
2	骨関節疾患における医療面接
3	整形外科的テスト 1
4	整形外科的テスト 2
5	整形外科的テスト 3
6	整形外科的テスト 4
7	整形外科的テスト 5
8	整形外科的テスト 6
9	整形外科的テスト 7
10	整形外科的テスト 8
11	整形外科的テスト 9
12	整形外科的テスト 10
13	運動器疾患に関する理学療法評価1
14	運動器疾患に関する理学療法評価2
15	まとめ

IV 成績評価

実技試験により評価する。

V 教科書

理学療法評価学 第6版補訂版(金原出版)
症例動画でわかる理学療法臨床推論 統合と解釈 実践テキスト(羊土社)

2026年 医学アカデミー—理学療法学科 夜間課程

2学年	科目	理学療法評価Ⅳ	単位・時間数	1単位・30時間
	講師	杉田 貴寛	担当教員	杉田 貴寛

I 教育目標

神経疾患(主に脳卒中)に対する理学療法評価過程・評価技術・臨床推論を学習する。

II 到達目標

神経疾患に対する理学療法評価過程を説明できる。
神経疾患の模擬症例に対する理学療法評価を実践できる。

III 学習内容(シラバス)

1	神経疾患における情報収集
2	神経疾患における医療面接
3	症状、障害と検査① 反射検査 筋緊張検査
4	症状、障害と検査② 感覚検査
5	症状、障害と検査③ 脳神経検査
6	症状、障害と検査④ 協調性(運動失調)検査
7	症状、障害と検査⑤ バランス検査
8	脳卒中片麻痺の評価 SIASの理論と評価①
9	脳卒中片麻痺の評価 SIASの理論と評価②
10	パーキンソン症候群の評価 運動失調の評価
11	神経疾患と動作分析
12	神経疾患とADL
13	高次脳機能検査
14	ケーススタディ1
15	ケーススタディ2

IV 成績評価

学力試験にて評価する。

V 教科書

理学療法評価学 第6版補訂版(金原出版)
ベッドサイドの神経の診かた 改訂18版(南山堂)
PT・OTビジュアルテキスト 神経障害理学療法学 第2版(羊土社)
症例動画でわかる理学療法臨床推論 統合と解釈 実践テキスト(羊土社)

2026年 医学アカデミー理学療法学科 夜間課程

2学年	科目	運動療法Ⅱ	単位・時間数	2単位・30時間
	講師	高橋 範行	担当教員	高橋 範行

I 教育目標

協調性改善運動、バランス練習、持久力増強運動、基本動作練習について学習する。
体力評価及びトレーニングに関わる基礎的な知識を学ぶ。

II 到達目標

上記の運動療法について説明、実践できる。

III 学習内容(シラバス)

1	運動の調節、反射階層理論、運動の学習
2	運動時の呼吸循環応答、持久力
3	協調性改善運動 1 協調性運動の原理、運動失調
4	協調性改善運動 2 Frenkel体操、重錘負荷、弾性緊縛帯
5	協調性改善運動 3 固有受容性神経筋促通法(PNF)
6	バランス練習 1 バランスとは
7	バランス練習 2
8	バランス練習 3 器具を用いた方法(DYJOCエクササイズなど)
9	持久力増強運動 1 運動負荷試験と運動処方
10	持久力増強運動 2
11	基本動作練習 1
12	基本動作練習 2
13	基本動作練習 3
14	理学療法上の問題点、目標と運動療法の選択・適応
15	まとめ

IV 成績評価

学力試験により評価する。

V 教科書

Crosslink理学療法学テキスト 運動療法学(メジカルビュー社)
配布プリント

2026年 医学アカデミー—理学療法学科 夜間課程

2学年	科目	物理療法	単位・時間数	1単位・30時間
	講師	安岡 裕輔	担当教員	杉田 貴寛

I 教育目標

物理療法の基礎、物理療法の種類および病態・障害に対する適応と禁忌、実施方法について学習する。

II 到達目標

物理療法の種類、病態・障害に対する適応と禁忌について説明できる
基本的な物理療法について実践できる。

III 学習内容(シラバス)

1	温熱療法1
2	温熱療法2
3	寒冷療法1
4	寒冷療法2
5	超音波療法1
6	超音波療法2
7	水治療法1
8	水治療法2
9	電気刺激療法1
10	電気刺激療法2
11	光線療法1
12	光線療法2
13	牽引療法1
14	牽引療法2
15	まとめ

IV 成績評価

学力試験により評価する。

V 教科書

Crosslink理学療法学テキスト 物理療法学(メジカルビュー社)

2026年 医学アカデミー理学療法学科 夜間課程

2学年	科目	日常生活活動	単位・時間数	1単位・30時間
	講師	武田 夢人	担当教員	杉田 貴寛

I 教育目標

日常生活活動(ADL)の概念と範囲(基本的ADL,応用的ADL)、ADLの評価方法(Barthel Index、FIM等)、ADL制限と福祉用具の適応について学習する。

II 到達目標

上記の内容について説明できる。

III 学習内容(シラバス)

1	オリエンテーション・ADLの概念と範囲
2	ADL評価評価の目的と実際
3	ADL評価法1 (Barthel Index・その他)
4	ADL評価法2 (FIM)
5	ADL評価法3 (FIM)
6	ADLの運動学と障害学1 (運動発達の観点からの運動学)
7	ADLの運動学と障害学2 (ADLの運動学的分析)
8	ADLの運動学と障害学3 (ADLの運動学的分析)
9	生活環境と生活関連活動1 (生活関連活動の概念)
10	生活環境と生活関連活動2 (生活環境の評価と問題解決のアルゴリズム)
11	ADLを支援するリハビリテーション機器1 (ADLと車椅子)
12	ADLを支援するリハビリテーション機器2 (ADLと自助具・補装具)
13	ADLを支援するリハビリテーション機器3 (ADLと自助具・補装具)
14	疾患別ADLの評価と指導の実際1 (脳血管疾患)
15	疾患別ADLの評価と指導の実際2 (人工関節術後)

IV 成績評価

学力試験により評価する。

V 教科書

Crosslink理学療法学科テキスト 日常生活活動学(メジカルビュー社)

2026年 医学アカデミー理学療法学科 夜間課程

2学年	科目	装具学	単位・時間数	1単位・30時間
	講師	戸田 伸	担当教員	杉田 貴寛

I 教育目標

機能低下および変形に対する装具療法の適応および調整方法について学習する。

II 到達目標

装具療法の適応および調整方法について説明できる。

III 学習内容(シラバス)

1	装具、装具療法とは
2	下肢装具の部品とその機能
3	短下肢装具
4	長下肢装具・股装具・膝装具
5	靴形装具
6	下肢装具のチェックアウト
7	体幹装具、側彎症装具
8	上肢装具と自助具
9	車椅子、歩行補助具
10	疾患別装具の処方 1 脳卒中片麻痺の装具
11	疾患別装具の処方 2 整形外科疾患の装具
12	疾患別装具の処方 3 関節リウマチの装具
13	疾患別装具の処方 4 対麻痺・小児の装具
14	疾患別装具の処方 症例演習
15	まとめ 装具学総括

IV 成績評価

学力試験により評価する。

V 教科書

PT・OTビジュアルテキスト 義肢・装具学 第2版(羊土社)

2026年 医学アカデミー—理学療法学科 夜間課程

2学年	科目 疾患別理学療法Ⅰ(骨関節)	単位・時間数 3単位・48時間
	講師 阿久澤 直樹	担当教員 杉田 貴寛

I 教育目標

骨関節疾患(骨折、変形性関節症、関節リウマチ等)に対する理学療法を学習する。

II 到達目標

上記疾患に対する理学療法について説明できる。

III 学習内容(シラバス)

1	総論 骨関節疾患に対する理学療法	16	脊椎疾患 評価と治療
2	組織再生・修復と術後管理(痛み・腫脹・浮腫)	17	スポーツ外傷・靭帯損傷
3	骨折と脱臼 総論	18	靭帯損傷 評価と治療
4	上肢骨折・下肢骨折	19	肩関節疾患
5	高齢者の4大骨折 評価と治療1	20	肩関節疾患 評価と治療
6	大腿骨頸部骨折	21	関節リウマチ
7	高齢者の4大骨折 評価と治療2	22	関節リウマチ 評価と治療
8	変形性股・膝関節症 総論	23	症例演習1
9	人工股・膝関節置換術	24	症例演習2
10	変形性股関節症 評価と治療		
11	人工股関節置換術 評価と治療		
12	変形性膝関節症 評価と治療		
13	人工膝関節置換術 評価と治療		
14	脊椎疾患1 ヘルニア、根症状		
15	脊椎疾患2 脊髄症状		

IV 成績評価

学力試験により評価する。

V 教科書

運動器疾患の治療とリハビリテーション(メジカルビュー社)

2026年 医学アカデミー理学療法学科 夜間課程

2学年	科目 疾患別理学療法Ⅱ(成人中枢)	単位・時間数 3単位・48時間
	講師 新井 啓介・他	担当教員 新井 啓介

I 教育目標

脳血管障害に対する理学療法を学習する。

II 到達目標

脳卒中の病期別理学療法介入について理解する。

III 学習内容(シラバス)

1	オリエンテーション 脳卒中の概要	16	脳卒中に対する理学療法(関節可動域に対するアプローチ)②
2	脳卒中の理学療法概論	17	脳卒中に対する理学療法(筋力に対するアプローチ)
3	脳卒中の理学療法評価	18	脳卒中に対する理学療法(高次脳機能障害に対するアプローチ)①
4	脳卒中の理学療法評価演習①	19	脳卒中に対する理学療法(高次脳機能障害に対するアプローチ)②
5	脳卒中の理学療法評価演習②	20	脳卒中に対する理学療法(基本動作に対するアプローチ)①
6	脳卒中の理学療法(急性期)①	21	脳卒中に対する理学療法(基本動作に対するアプローチ)②
7	脳卒中の理学療法(急性期)②	22	脳卒中に対する理学療法(基本動作に対するアプローチ)③
8	脳卒中の理学療法(回復期)①	23	脳卒中に対する理学療法(ADLに対するアプローチ)
9	脳卒中の理学療法(回復期)②	24	まとめ
10	脳卒中の理学療法(維持期)①		
11	脳卒中の理学療法(維持期)②		
12	片麻痺に対する装具、自助具		
13	脳卒中に対する理学療法(麻痺に対するアプローチ)①		
14	脳卒中に対する理学療法(麻痺に対するアプローチ)②		
15	脳卒中に対する理学療法(関節可動域に対するアプローチ)①		

IV 成績評価

学力試験により評価する。

V 教科書

PT・OTビジュアルテキスト 神経障害理学療法学 第2版(羊土社)

2026年 医学アカデミー—理学療法学科 夜間課程

2学年	科目 疾患別理学療法Ⅲ(神経筋)	単位・時間数	3単位・48時間
	講師 新井 啓介・他	担当教員	新井 啓介

I 教育目標

神経筋疾患(パーキンソン病、多発性硬化症、筋萎縮性側索硬化症等)および脊髄損傷に対する理学療法を学習する。

II 到達目標

上記疾患に対する理学療法について説明できる。

III 学習内容(シラバス)

1	オリエンテーション、神経筋疾患の概要1	16	ギランバレー症候群、シャルコーマリー・トウス病に対する評価と理学療法2
2	神経筋疾患の概要2	17	神経筋接合部疾患、重症筋無力症に対する評価と理学療法1
3	パーキンソン病、パーキンソン症候群に対する評価と理学療法1	18	神経筋接合部疾患、重症筋無力症に対する評価と理学療法2
4	パーキンソン病、パーキンソン症候群に対する評価と理学療法2	19	脊髄損傷の概要・特徴
5	パーキンソン病、パーキンソン症候群に対する評価と理学療法3	20	脊髄損傷に対する評価・理学療法1
6	パーキンソン病、パーキンソン症候群に対する評価と理学療法4	21	脊髄損傷に対する評価・理学療法2
7	脊髄小脳変性症に対する評価と理学療法1	22	脊髄損傷に対する評価・理学療法3
8	脊髄小脳変性症に対する評価と理学療法2	23	疼痛、めまいに対する理学療法
9	脊髄小脳変性症に対する評価と理学療法3	24	まとめ
10	脊髄小脳変性症に対する評価と理学療法4		
11	筋萎縮性側索硬化症に対する評価と理学療法1		
12	筋萎縮性側索硬化症に対する評価と理学療法2		
13	脱髄性疾患に対する評価と理学療法1		
14	脱髄性疾患に対する評価と理学療法2		
15	ギランバレー症候群、シャルコーマリー・トウス病に対する評価と理学療法1		

IV 成績評価

学力試験により評価する。

V 教科書

PT・OTビジュアルテキスト 神経障害理学療法学 第2版(羊土社)

2026年 医学アカデミー理学療法学科 夜間課程

2学年	科目	理学療法総合理解Ⅱ	単位・時間数	1単位・16時間
	講師	田中 靖子・他	担当教員	田中 靖子

I 教育目標

基礎医学の知識を基に、臨床医学のつながりを復習し、疾病の特徴や病態について整理する。

II 到達目標

基礎医学・臨床医学について問題演習を通して理解する。

III 学習内容(シラバス)

1	オリエンテーション 基礎医学の復習
2	臨床医学 演習1(一般臨床医学)
3	臨床医学 演習2(神経内科)
4	臨床医学 演習3(整形外科)
5	臨床医学 演習4(病理)
6	臨床医学 演習5(内科)
7	臨床医学 演習6(老年期障害)
8	まとめ

IV 成績評価

学力試験により評価する。
なお、授業時間外に模擬試験を3回実施するので、必ず出席すること。

V 教科書

配布プリント

2026年 医学アカデミー—理学療法学科 夜間課程

2学年	科目	総合理学療法Ⅱ	単位・時間数	1単位・30時間
	講師	杉田 貴寛 他	担当教員	杉田 貴寛

I 教育目標

臨床実習Ⅱに向けた準備として知識及び技能の総復習を行う。
特に検査測定の実施と結果の理解および理学療法治療介入計画の立案について理解を深める。

II 到達目標

臨床実習Ⅱに必要な知識と技能を修得する。

III 学習内容(シラバス)

1	理学療法評価の流れ、臨床思考過程が理解・実践できる
2	脳血管疾患(片麻痺)に対する評価1
3	脳血管疾患(片麻痺)に対する評価2
4	整形外科疾患(大腿骨頸部骨折)に対する評価1
5	整形外科疾患(大腿骨頸部骨折)に対する評価2
6	脳血管疾患(片麻痺)に対する理学療法治療介入計画の立案
7	整形外科疾患(大腿骨頸部骨折)に対する理学療法治療介入計画の立案
8	総合的な理学療法検査測定～治療介入計画立案のまとめ
9	理学療法評価演習課題の説明、症例紹介、グループ分け
10	脳血管疾患、整形外科疾患に対する評価演習 模擬症例を設定した実技演習1
11	脳血管疾患、整形外科疾患に対する評価演習 模擬症例を設定した実技演習2
12	脳血管疾患、整形外科疾患に対する評価演習 模擬症例を設定した実技演習3
13	脳血管疾患、整形外科疾患に対する評価演習 模擬症例を設定した実技演習4
14	実技演習の振り返り1
15	実技演習の振り返り2

IV 成績評価

実技試験(口頭試問を含む)により評価する。

V 教科書

症例動画でわかる理学療法臨床推論 統合と解釈 実践テキスト(羊土社)

2026年 医学アカデミー—理学療法学科 夜間課程

2学年	科目	地域リハビリテーション (地域包括ケア、介護予防)	単位・時間数	1単位・30時間
	講師	田中 靖子	担当教員	田中 靖子

I 教育目標

地域リハビリテーションの概念、地域におけるリハビリテーション活動、地域包括ケアにおける理学療法士の役割、健康維持・増進や介護予防、終末期医療における理学療法士の活動について学習する。

II 到達目標

上記内容を理解し、地域における理学療法士の役割、活動内容を説明できる。

III 学習内容(シラバス)

1	地域リハビリテーションの成り立ち 地域包括ケアシステム 在宅生活の支援技術・社会資源について
2	介護保険制度
3	医療保険制度・病床機能
4	ケアマネジメント・リハビリテーションマネジメント
5	通所リハビリテーション・訪問リハビリテーション・入所リハビリテーション
6	介護予防と高齢者施策
7	介護予防事業の実際
8	障害者施策(障害者総合支援法など)
9	障害者の自立と支援方法 終末期および小児領域における地域リハビリテーション
10	地域リハビリテーションにおけるリスク管理
11	フィールドワーク 概要説明
12	フィールドワーク事前準備
13	フィールドワーク1
14	フィールドワーク2
15	まとめ

IV 成績評価

学力試験(70%)および課題レポート(30%)の合算により評価する。

V 教科書

PT・OTビジュアルテキスト 地域リハビリテーション学 第2版(羊土社)

2026年 医学アカデミー—理学療法学科 夜間課程

2学年	科目	臨床実習Ⅱ	単位・時間数	9単位・405時間
	講師	杉田 貴寛	担当教員	杉田 貴寛

I 教育目標

医療施設等において対象者の評価(検査測定、問題点抽出および目標設定)、理学療法介入計画立案について臨床実習指導者の管理・監督の下で体験し学習する。
医療チームの一員として果たすべき役割について学習する。

II 到達目標

上記内容について、臨床実習指導者の管理・監督の下で実施し、記録を作成できる。

III 学習内容(シラバス)

実習は学内事前実習(7日間)、施設実習(7週間)、学内事後実習(3日間)をもって構成する。

※詳細は臨床実習Ⅱ手引きに基づき説明する。

IV 成績評価

学内事前実習評価、施設実習評価、学内事後実習評価を総合的に勘案して決定する。
実習事前・事後評価は、基礎学力試験、客観的臨床能力試験(OSCE)実習後発表会等を用いて評価する。

V 教科書

臨床実習Ⅱ手引き

2026年 医学アカデミー—理学療法学科 夜間課程

2学年	科目 臨床実習Ⅲ (地域リハビリテーション実)	単位・時間数	1単位・45時間
	講師 杉田 貴寛	担当教員	杉田 貴寛

I 教育目標

通所リハビリテーション施設および訪問リハビリテーション施設において利用者に対する理学療法を見学し、理学療法の一部について体験する。
地域包括システムに関与する関連専門職の役割を理解する。

II 到達目標

上記内容について、臨床実習指導者の管理・監督の下で実施し、記録を作成できる。

III 学習内容(シラバス)

学校が指定した通所リハビリテーション施設または訪問リハビリテーション施設において、5日間の見学実習を行う。

※詳細は臨床実習Ⅲ手引きに基づき説明する。

IV 成績評価

実習指導報告書、デイリーノート、見学・体験報告書等により総合的に判断して評価する。

V 教科書

臨床実習Ⅲ手引き

【メモ】

